

平成 21 年度コミュニティ・スクール推進協議会 実践発表資料

(ふりがな)	( いわくにしりつ みわ ちゅうがっこう )									
学校名	岩国市立美和中学校									
(ふりがな)	( いわくにし みわまち いきみ )									
所在地	山口県岩国市美和町生見 5 8 5									
電話番号	0 8 2 7 ( 9 6 ) 0 0 7 4			FAX番号		0 8 2 7 ( 9 6 ) 0 3 3 9				
学級数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支	計		
	1	2	1				1	5		
児童・生徒数	33	43	32					108		
	(特支)	0	1	0				1		
教職員数	13人	学校運営協議会を置く学校として指定された年月日				平成19年7月1日				
学校運営協議会の 委員数・構成	12人	内	地域代表	5人	保護者代表	3人	教職員	4人		
		訳	大学教授等有識者	0人						
学校運営協議会代表者(会長等): 地域代表(元美和町教育長)										
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成18年3月旧岩国市と旧美和町他6町が合併し新岩国市となり、岩国市立中学校として平成18年度より再スタートした。</li> <li>平成19～20年度文部科学省コミュニティ・スクール推進事業調査研究指定校となった。平成21年度は岩国市教育委員会の研究指定校。</li> </ul>									

(平成21年6月22日時点)

I 学校運営協議会設置までの経緯、設置後の改善状況

1. 「学校運営協議会を置く学校(コミュニティ・スクール)」指定前の状況

- 平成18年3月まで、美和町の唯一の中学校として地域の厚い期待を受け、美和町教育委員会を中心とした行政機関の手厚い支援のもと、学校教育が進められてきた。しかし、平成18年3月20日に岩国市と旧美和町他6町が合併し、市内中学校17校中の1校となった。今まで身近な教育委員会に支えられてきた本校にとって、拠り所を失った感じは否めなく、市の中心部との交流が深まる中で、地域自体も中学校が文化の要という意識は希薄になってきていた。
- 学校は数年前のやや荒れた状態から、落ち着きのある学校に戻っていたが、保護者との連携に課題が残っており、年間に何件かの学校と家庭との考え方の相違による問題が発生していた。平成19年度当初、保護者や地域の方の中学校に対する意識は、小学校と高校(町内に普通科の県立高等学校がある。)に比べ、中学校は距離感を感じるという意見に代表されていた。また、以前より部活動の開設を巡る話し合いの中で、保護者・地域指導者と教職員との間に意見の相違があり、継続した課題を残していた。

## 2. 学校運営協議会の設置を決めた理由

- 平成18年度に市教育委員会から学校運営協議会制度の紹介を受け、学校は、町立時代の地域の教育への厚い思いや社会教育諸団体との密接な連携を再構築し、現状のやや閉塞的な感じを打開するために、保護者や地域の方々が運営に参加し、客観的に学校の在り方を見つめ評価する、学校運営協議会を設置することで、課題解決を図ろうと考えた。

## 3. 学校運営協議会の設置方針の決定後から設置までの課題とその対応状況

- コミュニティ・スクール推進事業調査研究指定前年度の職員への学校運営協議会制度の周知
  - ⇒ コミュニティ・スクール先進校の事例を研修するために、県の推進フォーラムに4名の職員を派遣して研修するとともに、後日、研修職員会で研修してきた内容を伝えることで制度の理解を深めた。
- 調査研究指定引き受け検討後の平成18年度末人事で、管理職（校長）の異動があったことによる学校運営協議会設置の準備（時期、校内体制・運営方法）等の取組停滞の懸念
  - ⇒ 学校運営協議会の学校代表委員予定者（校長、教頭、教務主任、研修主任）の話し合いによって4月中に設置準備の運営方針を再度確認し、教職員との意見の調整を図り、設置に向けて準備を円滑に進めた。
- 市広報による学校運営協議会委員（地域代表）の公募で応募者がなかったことによる委員補充
  - ⇒ 平成18年度中にリストアップしてあった委員候補者（元PTA役員で農業委員の方や民生児童委員の方）から選抜し、校長から依頼することで地域代表を決定した。
- 平成19年度始めに新しく着任した教職員も含めた全教職員へのコミュニティ・スクール運営についての共通認識（保護者や地域の方の意見に学校運営が左右されると感じ抵抗感をもつ教職員への意識啓発）
  - ⇒ 保護者や地域の方の学校教育への参加が、生徒育成にどのような働きをするのか、コミュニティ・スクール先進校の前校長を校内研修会講師として招き、地域への学校開放がどのような成果をあげるのかを研修し、意識啓発を図った。
- コミュニティ・スクールの推進に全教職員が関わるための校内研修体制づくり
  - ⇒ 平成19年度の学校経営では校内研修主題を「地域社会の中での豊かな体験活動を通して、健やかな心をもつ生徒の育成」とし、学校運営協議会立ち上げに向けて地域連携活動を重点にし、全教職員がコミュニティ・スクールの運営に関わることを目的として研修体制を整えた。
- 地域と連携した教育を進めるためコミュニティ・スクールによる学校運営を始めようとする学校の意志の地域への周知
  - ⇒ 例年の学校開放週間（6月）に様々な地域連携活動を企画し、新聞やCATVに取材を依頼し、活動の様子を地域に知らせると共に、学校運営協議会をもつコミュニティ・スクールによる学校運営を開始することを地域に発信した。

#### 4. 学校運営協議会が学校や教育委員会に対してこれまでに提案してきた主な意見等

##### 【学校運営の基本的な方針に対するもの】

- 学校は、故郷を愛し地域を大切に子ども達の育成を目指し、地域の特性を生かした教育を具体化する。(推進コンセプトを「郷土美和を愛する創造的で心豊かな人材づくり」とする。)
- 学校は、学校教育目標「生徒一人ひとりの生きる力の育成」の「生きる力」の意味を家庭・地域にわかりやすく具体的に示し、家庭・地域と一体となって学校教育目標の実現を図るための教育活動を進める。また、そのための地域の学校応援団となる人材を確保する。
- 学校は、コミュニティ・スクールとしての学校運営の実践を、家庭・地域にわかりやすい方法で周知し、学校が地域から支援を受けるための方法や学校への意見や要望を聴き取る手段を工夫する。

##### 【学校運営に関する事項に対するもの】

- 学校は、地域の歴史・文化・産業・自然を、教科のカリキュラム・学習内容に生かすことを目的とした、教科学習の教材化を進め、地域人材の活用を一層図る。
- 学校は、保育所入所から小・中学校を経て、美和町内の高校を卒業する者が同一学年の約7割いる地域の実態を考慮し、保・小・中・高の連携を図り、一貫性のある教育が進められるよう工夫する。(美和町内には幼稚園なし)
- 学校は、食育を推進し、農業への関心を高めるとともに、食文化を大切に子ども達の育成を図る。また、教育委員会を通して生産者の顔が見える給食米にするための生産農家への公募と流通の調整を図る。

##### 【学校の職員の採用その他の任用に関する事項に対するもの】

- 任命権者である教育委員会に意見を申し出るまでには至っていないが、学校運営協議会の会合の中で文部科学省調査研究事業指定終了後のコミュニティ・スクール運営のための担当教員の補充を望む声が聞かれた。

#### 5. 学校運営協議会が提案した意見を踏まえた、学校や教育委員会の具体的な取組

##### 【学校運営に関すること】

- 学校と地域が一体となって教育を進めるための運営組織づくり  
学校教育目標「生徒一人ひとりの生きる力の育成」の「生きる力」について家庭・地域に分かりやすく具体化するため、4つの柱「学力をつける」「心を育てる」「健康を考える」「生き方を知る」に分けて示し、この4つの柱を、家庭・地域と共同実践するための組織を「まなびコミュニティ」「こころコミュニティ」「けんこう・あんぜんコミュニティ」「いきかたコミュニティ」と名付け、教育活動を連携させることで、地域から提案を受けた教育活動を共同実践した。  
(具体的な活動は次の項目「教育活動に関すること」に記載)  
(別添資料 平成20年度コミュニティ・スクール組織図参照)

- 学校の教育活動を応援する美和中サポーターの設置（写真はサポーター集会と奉仕活動）  
平成19年12月からサポーター募集を開始し、美和中学校の教育活動の見守り隊として、登下校の安全確認や学校支援ボランティアへの参加を目的とした組織をつくり、教育活動への参加を呼びかけた。（平成20年12月にサポーター集会開催）



- 学校運営協議会情報誌「コミスク」の発行と学校HP（ホームページ）による情報発信

学校教育活動の紹介やそれに対する学校運営協議会委員の感想、講師となった地域の方の感想、学校評価の内部評価、外部アンケート結果等の情報発信を行ってきた。

- 美和の歴史・文化・産業・自然を地域の人から学ぶ学習

「美和を学ぶ」と名付け、学校開放週間を中心に地域教材や地域人材を生かした郷土学習を行ってきた。

- 保・小・中・高連携教育の推進（写真は連携研修会、中学校の出前授業、高校の出前授業）

美和町内にある2小学校、1中学校、1高等学校が連携し教育を実践するための連携研修会（夏季休業中の小・中・高の全教員参加による会）の開催及び各校種間の連携を深める出前授業（保から中へ、中から小へ、高から中へ）や保育実習を行ってきた。



- 給食米の生産のための米づくりボランティアの公募やそのための流通の検討

学校運営協議会の提案を受け、教育委員会は学校運営協議会代表、総合支所担当者、農林事務所担当者、JA担当者、学校の給食担当者を集め、学校給食米の流通の変更を検討する会を開き、米づくりボランティアが生産した給食米を給食に使うことが可能となった。

#### 【教育活動に関すること】

- 学校と「まなびコミュニティ」との連携した教育活動

美和の歴史・文化等を教材としたり、地域の人材を生かした学習活動を実践した。

■美和の地理・歴史を学ぶ（社会）      ■美和の自然を学ぶ（理科）

■保育所実習と保育講話（家庭） ■地域の合唱団の合唱指導（音楽） ■詩吟（音楽）

■伝統文化「秋掛太鼓」（選択社会）      ■生徒会と地域の方との懇談会



- 学校と「こころコミュニティ」との連携した教育活動  
地域の方と共に豊かな心の育成に向けた活動を工夫し、実践した。

- 地域の方と生徒会合同のあいさつ運動
- 道徳授業の地域公開・地域GT（ゲストティーチャー）の参加
- トイレクリーンアップイベント（公共のトイレ掃除）
- 福祉ボランティア



- 学校と「けんこう・あんぜんコミュニティ」と連携した活動  
食文化について考えを深めるため美和の郷土料理実習や農業体験等を実践した。

- 郷土料理学習（家庭）
- 美和駅伝競走大会への全校生徒参加（保健体育）
- 学校保健委員会での食育発表と美和中サポーターによる講話
- 餅つき会
- 田植え体験
- 茶摘み体験



○ 学校と「いきかたコミュニティ」との連携した教育活動

美和の伝統的な産業や職場で働く人の姿を通して生き方を学ぶ取組を実践した。

■学校開放週間「美和を学ぶ」での講話「岸根栗」「美和茶」「養蜂」「山代神楽」

■地域の職業人による職業講話と意見交換 ■地域事業所における職場体験

■保護者による講演と意見交換「世界の話と14歳の君に望むこと」



【教職員の任用に関すること】

○ 調査研究事業指定終了後のコミュニティ・スクール運営のための担当教員の配置

学校運営協議会で、文部科学省調査研究事業指定（教員の加配）終了後の地域連携教育活動継続の中心となる教員の必要性についての声が聞こえたことから、校長が教育委員会への人事の意見具申において、コミュニティ・スクールの運営を担当する非常勤講師の配置を要望し、配置が行われた。

6. 学校運営協議会の設置後に感じられる変化（成果）

【学校（教職員）側】

○ 地域に育つ子ども達という認識が深まり、地域を大切にし、地域の文化・歴史・産業を積極的に教育活動に生かすことで、教職員も共に学び理解することが生徒や家庭を理解することに繋がるという意識が生まれた。そのことで、地域連携活動の具体案が次々に実践できた。また、道徳教材を通して保護者と意見交換する機会を設ける等して、家庭と積極的に対話しようとする姿が見られるようになってきた。

○ 平成20年度学校評価の自己評価項目の中の、評価領域「保護者・地域住民との連携」6項目はそれぞれ肯定的評価が80%～93%の間であり、教職員が自分たちの取組を高く評価していることがわかる。また、校内研修（指導法の改善を目指した授業研究の充実）や生徒会活動（チャレンジ目標の達成を目指した自主的活動）も高く評価しており、学校全体の活性化を感じている。

○ 学校から地域や家庭への学校運営方針、教育活動内容、学校評価結果についての情報発信力が格段に向上した。HPのアクセス数は19年度立ち上げ以来20年度末までに13,000件を超えたほか、携帯サイトを設け、週日課や配布物の案内を始めた。さらに、地域全体に配布する情報誌「コミスク」の作成に力を入れた。

（別添資料 学校運営協議会情報誌「コミスク」参照）

【教育委員会側】

○ 教育委員会も保護者や地域との連携を重視する取り組みを積極的に行うようになり、コミュニティ・スクールの取組成果を県内の学校に伝える研究報告会の案内を行ったり、市独自のコミュニティ・スクールの調査研究を本校に委嘱している。

【園児・児童・生徒側】

○ 学校評価の内部評価を補足するために行った生徒アンケートで、学校生活全般について以下のような変化が見られた。

① 「学校生活を楽しく過ごしている」

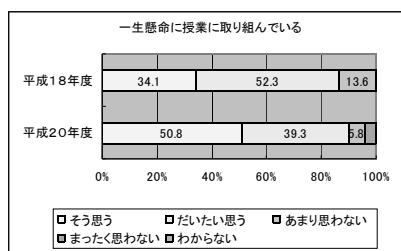
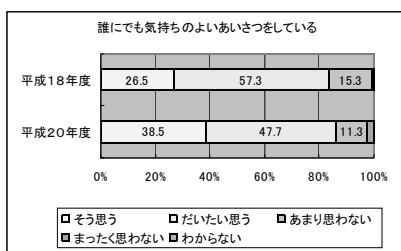
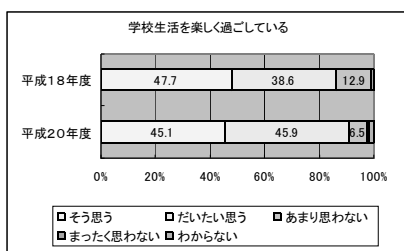
肯定的評価 平成18年度 86.3% → 平成20年度 91.0%

② 「誰にでも気持ちのよいあいさつをしている」

肯定的評価 平成18年度 83.8% → 平成20年度 86.2%

③ 「一生懸命授業に取り組んでいる」

肯定的評価 平成18年度 86.4% → 平成20年度 90.1%



地域の方々との様々な交流や地域教材を使った教育活動が刺激となって、生徒の学校生活そのものが向上してきた。

○ 体験活動を多く取り入れた、生徒自ら肌で感じ取る学習活動の展開は、生徒にとって新鮮であり、理解を深めたり、情意的な力や感性の広がりなど好影響を与えた。地域について学ぶことは、生徒が今まで感じ得なかった美和町の良さを感じ取り、誇りに思う学習活動となった。学校での活動をきっかけとして、地域の伝統芸能活動に参加し始めた生徒もいる。生徒の感想の中に「地域を守りたい」「地域を大切にしたい」「地域がもっと好きになった」という言葉が生まれたことは成果である。

【保護者側】

○ 学校評価の内部評価を補足するために行った保護者アンケートで、学校に対する意識に以下のような変化が見られた。

① 「学校は家庭・地域との連携を図り教育を推進しているか」

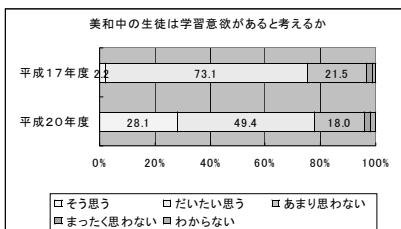
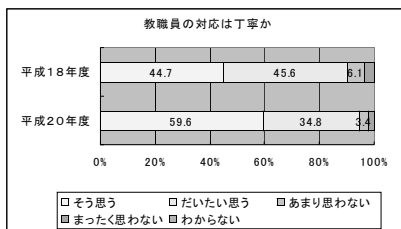
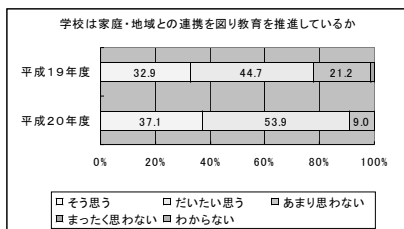
肯定的評価 平成19年度 77.6% → 平成20年度 91.0%

② 「教職員の対応は丁寧か」

肯定的評価 平成18年度 90.3% → 平成20年度 94.4%

③ 「美和中の生徒は学習意欲があると考えるか」

強い肯定的評価 平成17年度 2.2% → 平成20年度 28.1%



- 学校がコミュニティ・スクールによる運営をすすめることで、学校の取組が地域全体に伝わり易くなり、今まで保護者が感じていた学校のイメージが変わってきたと考えられる。PTAだよりにコミュニティ・スクールの紹介が「今、美和中に注目！」と掲載されるなど、保護者が学校に向ける意識が変わってきた。

#### 【地域側】

- 平成20年度6月の学校開放週間期間での、保護者・地域の方の学校参観者数は、過去最多数の185名であった。19年度から21年度6月までの間に、講師として教育活動に参加した地域の方は延べ93名、ボランティアとして参加いただいた方を合わせると200名以上となる。19年12月から募集を始めた美和中学校サポーター登録者は現在136名である。調査研究の地域報告会には多くのサポーターの方々にお手伝いをいただいて、学校と地域とPTA組織が一体となって開催することができた。何よりも子ども達のために、自分達が何かしてやれることが嬉しいとの意見を度々聞いた。

### 7. 学校運営協議会の設置後に抱えている課題

- 学校運営協議会としての機能の充実

地域人材のコーディネーターとして学校運営協議会委員の存在は大きい。一方、組織に求められている役割は、学校教育の現状から課題を見つけ、積極的に課題の解決を図ることである。今後、具体的な教育活動を協議題にしながら、教育現場の課題を的確に捉え判断する力を、学校運営協議会自体が持てるよう、工夫する必要がある。

- 効果的な情報発信方法の検討

地域と連携した教育活動を積極的に発信してきたが、家庭や地域が求める学校情報になっているか、また、教育活動の内容が本当に浸透しているかは課題である。HP、情報誌、メディア等の活用によって様々な年代、立場の人に浸透し、現在の教育課題が学校の話の中から見えてくるような内容を発信していく必要がある。また、担当する学校職員の負担が次第に大きくなる現状も課題と言える。

- 地域の方が教育に主体的に関わるために、各教科、道徳での地域教材や人材の一層積極的な活用

地域の方々の思いに応じて地域の素材を生かした教育活動を行ってきたが、今後、教科の学習の中で系統性を持たせたカリキュラム編成や総合的な学習の時間を中心とした教科横断的な取り組みを進め、生徒の学習意欲を一層刺激する内容を工夫する必要がある。また、必修教科の年間計画の単元や題材の中に、地域の専門家が指導者として参加することが効果的であるかを検討し、適切に配置することが考えられる。

- 学校・家庭・地域三者のバランスの良い結びつきを検討

地域の社会教育諸団体や各種団体、事業所及び個人の方と様々な活動を推進し、今までより格段に地域との連携が深まってきた。しかし、学校と家庭との連携や、家庭と地域の連携が同じようなバランスで深まっている訳ではない。コミュニティ・スクールとしての運営の中で、PTA活動と地域の方々との連携をどのように位置づけるかを再度検討する必要がある。



○ 保小中高異校種間の交流の深化

現状では小中間の中一ギャップを埋めるための取り組みや、学習への興味・関心を高めるために互いに授業提供を行っている。この地域で育つ子の一貫した指導を行う意味から、異校種間の連携を教科指導や家庭生活習慣の育成、道徳教育における規範意識・倫理観育成の視点から深める必要がある。

8. 上記7の課題の解決に向けた今後の取組予定

○ 学校運営協議会としての機能の充実

- ・ 学校経営の具体的目標に関する細かな評価を機会ごとに繰り返し、評価する視点を共通化し年間を通した学校関係者評価の充実を図っていく。
- ・ 協議を充実するため、地域の方、保護者の意見をもとにした協議題の工夫を行う。

○ 効果的な情報発信方法の検討

- ・ HPや情報誌のモニター制度をつくり意見を反映させる。

○ 各教科、道徳での地域教材や人材の積極的な活用

- ・ 教科の年間計画に地域の専門家の指導を位置づける。
- ・ 美和を学ぶ学習を教科や総合的な学習の時間を組み合わせた、教科横断的な学習に編成する。(別添資料「平成21年度美和学」年間計画参照)
- ・ 道徳の授業に地域のGTと協力した指導内容を蓄積していき、実践事例が今後の人材活用に生かせるようにする。

○ 学校と家庭との結びつきの強化

- ・ PTA活動に地域の方の協力を得る機会を増やす。  
(親子ふれあい奉仕活動へのサポーター参加)(地区懇談会でのサポーターの講話)

○ 保小中高異校種間の交流の深化

- ・ 日常の小学校児童と中学校生徒間の交流の機会、教員の交流の機会を増やす。  
(出前あいさつ運動)(部活動参観日)(一日中学校体験)(校長情報交換会)
- ・ 小中高の共通課題に基づく実践目標を設定し、系統的な指導方法を検討する。

## II 学校運営協議会の実際の運営状況等

### 1. 学校運営協議会の運営状況



(平成20年度実績：年10回開催)

平成20年度第1回学校運営協議会

回	年月日	議 題 等
1	H20. 4. 30	(審議) 運営方針等の説明 運営協議会年間計画作成
2	H20. 5. 29	(協議) 学校開放週間の内容 学校給食の地産地消の進め方
3	H20. 6. 27	(協議) 学校開放週間の反省 学校給食の地産地消の進め方
4	H20. 7. 28	(協議) 美和中サポーターの拡大 親子ふれあい奉仕活動
5	H20. 9. 24	(協議) 高等学校出前授業 道徳公開授業への参加
6	H20.10.29	(協議) サポーター集会案 職場体験の進め方
7	H20.11.19	(協議) サポーター奉仕活動案 給食米公募 研究報告会の持ち方
8	H21. 1. 21	(協議) 研究報告会役割分担 学校評価結果考察 研究紀要原稿
9	H21. 2. 25	(審議) 学校関係者評価の実施
10	H21. 3. 23	(協議) 平成20年度の反省とまとめ
<p>(補記)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その他、学校運営協議会委員は地域連携活動や各教科・道徳授業公開の参観、学校行事(入学式、体育祭、文化祭、卒業式)に参加。</li> <li>・学校運営協議会が美和中サポーター集会・奉仕活動を主催。</li> <li>・学校運営協議会の意見を具体化するための社会教育団体の長を中心とした事業委員会(コミュニティ)を開催。</li> </ul>		

### 2. 学校運営協議会に関する基本情報等

○ 学校運営協議会を置く学校としての指定期間(年数)※規則上

2年

○ 学校運営協議会の委員の任期(年数)※規則上

2年

○ 学校運営協議会の委員の改選方法の工夫

原則として継続をお願いしながら、地域との連携活動で中心となっていた方に加わっていただき、メンバーを少しずつ入れ替えるようにしている。

○ 学校運営協議会の議事内容の公開状況

HP上で議事項目だけを公開している。今後については検討中である。

### 3. 学校の教育活動に協力する仕組み（PTA、学校支援地域本部事業等）との連携状況

- 学校運営協議会を中心とした、学校と地域全体を取り込んだ連携組織を「美和未来プロジェクト」と名付け、地区内の社会教育諸団体（婦人会、老人会、民生児童委員協議会、更生保護女性会、保護司会、農業委員会、ライオンズクラブ、ふるさとづくり推進協議会）と連携し、様々な連携活動の中心となっている。この場合、学校運営協議会や諸団体の長からなる事業委員会がコーディネーター役となっている。
- PTA活動との連携は組織としての位置づけはなく、学校運営協議会内部のPTA役員との話し合いの中で、PTA活動（ふれあい奉仕活動、地区懇談会など）への地域の方の参加を企画している。

### 4. 学校運営に対する意見を聞く他の仕組み（学校関係者評価、外部アンケート等）との連携状況

- 学校評価における自己評価の一環として行う外部アンケートは、生徒・保護者以外に、学校に来校される方、子ども110番設置の事業所等からもいただいている。
- 学校関係者評価は学校運営協議会内で実施している。また、学校運営協議会主催の美和中サポーターの集会（136名）を行って直接意見を聴く機会を持っている。

### 5. その他

（別添資料）

- 平成20年度学校運営図
- 平成20年度コミュニティスクール組織図
- 学校運営協議会情報誌「コミスク」
- 平成21年度「美和学」年間計画